

# 名古屋 文化 情報

2017  
**11.12**  
November / December

**No. 377**  
NAGOYA  
Cultural  
Information

随想／松村 一葉（川口 節子バレエ団） 視点／コンサートホールの2018年問題  
この人と／田邊 雅一（グラフィックデザイナー）  
いとしのサブカル／水野 善文（金虎酒造株式会社 専務取締役）



2017

11・12

November / December

Contents

名古屋市民文芸祭 受賞作品..... 2

随想 時間と空間を司る芸術  
松村 一葉(川口節子バレエ団)..... 3

視点 コンサートホールの2018年問題..... 4

この人と・・・  
田邊 雅一(グラフィックデザイナー) ..... 6

ピックアップ  
子どもたちが舞台の感動に出会うお手伝い ユーリカ基金..... 10

いとしのサブカル  
水野 善文(金虎酒造株式会社 専務取締役/ナゴヤクラウド イエロー).... 11

おしらせ..... 12

「なごや文化情報」編集委員

- 上野 茂 (ナゴヤ劇場ジャーナル編集長)
- 森本悟郎 (表現研究・批評)
- 山本直子 (編集・出版 有限会社ゆいぽおと代表)
- 吉田明子 (人形劇団むすび座制作部長)
- 米田真理 (朝日大学経営学部教授)
- 渡邊 康 (椋山女学園大学教育学部准教授)

表紙

作品

枝と影

(2017年/キャンバス・油彩/162.0×162.0cm)

この作品は木の枝と影の關係に着目し描きました。  
光と影について考えるとき、私は自分自身や周囲の人々、風景などこの世界にあるものの存在を思い浮かべます。それら一つ一つを確かめながら制作しています。



鈴木 雅明 (すずき まさあき)

- 1981年 愛知県生まれ
- 2008年 愛知県立芸術大学大学院 美術研究科修了
- 2005年 シェル美術賞2005 グランプリ受賞
- 2010-12年 自主運営スペースGALLERY GOHONの設立、運営メンバーとして活動
- 2016年 個展「screen」(ガレリアフィナルテ / 愛知)

「2016年 名古屋市民文芸祭」  
〔第七七回名古屋短詩型文学祭〕小・中学生の部  
詩の部 受賞作品より ※受賞時の学校・学年で掲載しています。

◆市長賞◆

椋山女学園大学附属小学校五年

水野 果歩

天から光降り注ぐガラスの箱庭

天からの光が  
人の心のガラスの扉を開け放つ  
人々はみな動きまわり  
ほほえみを浮かべる  
春の暖かな野原に  
天から光が降り注ぐ

私のガラスの箱庭にも  
そよ風が流れる  
ただようその風が私にささやく

「あなたはなぜ風に乗らないの？」と  
太陽も私に話しかける  
「あなたはなぜ私を見ないの？」と

私は答える  
「私のこの貴重な時間をうばわないで  
私は太陽の光を浴びて  
そよ風に吹かれるのは好き  
でもこの私のガラスの箱庭で  
一人本を読むのがもっと好き」と

ガラスの窓に降り注ぐ  
太陽の光をじっと見て  
私は思いきつて  
本を置き  
外へ出た

芝生の上で寝ころび  
ずつと空を見上げ  
大きく息をすう  
春風にあたりながら  
輝く太陽の光を浴びながら

## 随想

## 時間と空間を司る芸術



まつ むら かず は  
**松村 一葉**(川口節子バレエ団)

3歳より母である川口節子氏にバレエを師事。16歳から渡米、ダマラ・ベネット氏主宰のサンフランシスコシティ・バレエスクールに所属しバレエのトレーニングと公演活動に積極的に参加。2002年から振付を開始し、2003年のRegional Dance of Americaに作品を出品。多大なる評価を得る。2004年にニューヨーク州立大学ダンス・コンサトリーに奨学金を得て入学。バレエ、モダンダンス、創作技術等を学び、2008年、同大学のBFAを取得し卒業した後、帰国し指導者・振付家として本格的に活動を開始する。名古屋市文化振興事業団2017年企画公演オペレッタ「白馬亭にて」振付を担当。

「音楽は時間を司る芸術であり、美術は空間を司る芸術、そして舞踊はその両方を司る芸術である」

今は亡き恩師平林和子先生が最初の授業で私たちに教えてくれた言葉だ。ヘビーな日本語なまりの英語は日本人の私にさえも聞きづらく皆苦労していたのを覚えている。

ニューヨークに自身のダンスカンパニーを持つ彼女は、振付をして活躍する傍ら、私が通っていたNY州立大学や、ジュリアード音楽院で振付の授業を受け持っていた。大学で振付を学んだというと、本来自由に創り上げる分野であるはずのものをどうやって習うのか?と不思議に思われるであろうし、実際にどの様なクラス内容なのかと質問を受けることも少なくはない。

多くの人たちがイメージする様に、私自身もかつていい動きや踊りのつくり方を教えてもらえるのだと期待していたが、実際は全くと言っていいほど違っていた。

ソロから始まる人数の異なる作品、年代の異なる音楽を用いた作品、360度観客の特殊な作品等の課題が出され、創作活動に追われた。作品を見せる度にダメだしが入りつくり直させられたが、そのほとんどが構成に関するもので、動きや振りに関しては私たちの個性を尊重してくれた。その中でも先生が拘っていたのは、舞台という3D空間の中で、フォーメーションがフラット、つまり平面的になってしまわないこと、常に奥行きを感じさせる動きを作り出すことだった。特に偶数の人数の作品では、シンメトリーが多くならないよう注意を払った。左右対称の動きというのは、平面的な印象になりやすい。現代舞踊の作品ではほとんど見られないが、クラシックバレエの古典作品では多く用いられている。しかし構成に注意して見てみると、斜め、円、

Sの字等の形態が入り混ざり、平面的にならないように上手く構成されている。音楽や踊りの美しさだけで何世紀も上演され続けてきた訳ではないのだ。

クラスの中には、バレエが得意な者、モダンダンスが得意な者、皆違った踊りの生い立ちがあり、技術も様々だった。本公演に毎年出られる者もいれば、一度も出られないまま卒業していく者もいた。振付のクラスで面白かった点は、必ずしも踊りが上手い者が振付が上手いという訳ではなかったことだ。バレエでもモダンでもぱっとしない…そんなダンサーがめきめきと腕を上げ、卒業と同時に自身のカンパニーを立ち上げ翌年にはマンハッタンで堂々と公演をするなんていうこともあった。在学中や、卒業後にプロのカンパニーやブロードウェイなどに就職する生徒が多くいる反面、チャンスに恵まれずダンサーとしての職を手にすることができなかった生徒も多い。だがそんな同級生達のSNSを覗いてみると、その多くが舞台操作の仕事に就いたり、母校で振付をしたり、チアダンスの振付をしてチャンピオンシップに導いたり、舞台人としての仕事をしている。

大きな表舞台に立つアーティストはほんの一握り。だがそこを目指して長きに渡り培った技術を活かして大学に行き、そして大学で学んだ知識を活かして舞台の世界で生涯働くことが出来たら、それも立派なアーティストとしての人生だ。「幼少期から続けていても、プロになれないなら辞めるしかない」という常識がまだ根強い日本のバレエ界だが、バレエ、舞踊、舞台芸術の世界はとても奥が深い。舞台が好き!という気持ちを将来設計の上で尊重していけるような、ダンサーの為の大学やカリキュラムがこの国でも増えることを切に願う。



# コンサートホールの2018年問題

名古屋のクラシック演奏会は愛知県芸術劇場大ホールとコンサートホール、室内楽は三井住友海上しらかわホールと電気文化会館を中心に展開している。そのいずれもが18年度一斉に改修・休館する。その影響について取材し様々な視点から考察する。

(まとめ：渡邊 康)

## 2018年 不足する音楽ホール

すでに新聞各紙でも報道されているとおり、名古屋市内の多くのホールで施設の経年劣化に伴う施設の改修と、東日本大震災を受けて改正された建設関係の法令によって大規模な耐震補強工事を中心とした工事が行われる。工事が同時期に重なり、最大約2万席が失われる規模になるために影響は大きい。

ホール不足問題はクラシック音楽関連にとどまらない。ポピュラー音楽・ミュージカル・演劇・舞踊・古典芸能の重要な拠点である愛知県勤労会館(鶴舞)、厚生年金会館(池下)、名鉄ホール(名古屋駅)の相次ぐ閉館、御園座(伏見)の建て替え、中日劇場(栄)の来年3月の閉館と著しいホール減少が更なる全国巡回公演の名古屋飛ばし現象を加速すると懸念されている。芸文大ホールは分野をクラシックとも共通するので直接の影響があるが、御園座の定期公演が市民会館ビレッジホール(中ホール)で行われるなど間接的な効果もあり、各分野で影響しあっている。

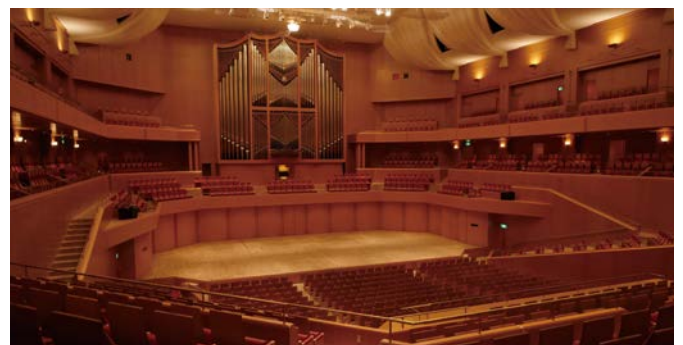
この「視点」では、愛知県芸術劇場コンサートホール(17年8月～18年11月25日改修・1800席)、電気文化会館(18年1月～8月末改修・395席)、三井住友海上しらかわホール(18年8月20日から1年程度改修・693席)の改修工事による約1年間の休館が、地元の演奏家、主催者、聴衆に大きな変化への対応を迫った様子を見る。

## 愛知県芸術劇場コンサートホールの休館とその影響

1992年10月に開館した愛知県芸術劇場は3つのホールがあり、その小ホール(17年10月まで改修中)、大ホール(18年4月～19年4月22日改修)とコンサートホールが休館する。そのコンサートホールは名古屋のオーケストラ演奏のメッカであるだけでなく、音響効果の良さが世界的に知られる名ホールである。昨年の12月に日本経済新聞紙面上で、バイエルン放送交響楽団の首席指揮者のマリス・ヤンソンスは「日本のサントリーホールと愛知県芸術劇場コンサートホール、札幌コンサートホール・キタラ、ミュゼ川崎シンフォニーホール。この4つが私にとって理想のホールで、ミュンヘンにも同水準のホールがほしいと長く願ってきた」と語るほどである。

このホールでは名古屋フィルハーモニー交響楽団が8月を除く毎月一回の定期演奏会を金曜日と土曜日に二日間開催しているが、金山駅に近い日本特殊陶業市民会館大ホールに会場を移した。毎回定期演奏会を楽しみにしている聴衆の一人は、「芸文コン

サートホールに比べると演奏者を遠くから眺めている感じで、響きが薄くて物足りない。やはり芸文コンサートホールの体ごと響きに包まれる感覚がよい」との感想で、これは多くの一致する意見であろう。また芸文ホールの栄駅直結のロケーションの良さと比較すると足を運ぶのに金山は少し魅力が落ちると感じるようである。名古屋フィルハーモニー交響楽団の事務局小出篤課長は、会場変更に伴う集客困難な状況について語る。「この9月定期公演では金曜日に聴衆は1044人で2300席の半分を切っている。私に関わってから十数年で初めての出来事」。さらに築45年の老朽化もあって空調のポー音が毎回クレームにされる。中ホールでの演奏の音が大ホールに漏れることもある。また、ホールの確保にも難しさがある。市民会館は公共ホールであるので、名フィルといえども特別扱いがされず平等に抽選される。規定によりホール使用の優先度が決められていて、1. 全国巡回ツアーをする世界的芸術家の公演、2. 名古屋市が主催の催し物の順に決定されるので、この期間だけ演奏会を名古屋市との共催としているなど対応が必要となった。さらには響きの良い近郊の刈谷市総合文化センター(刈谷駅と直結)、東海市芸術劇場(太田川駅と直結)で開催の案も一時は検討されたが、やはり交通の便が良いとはいえ、そこまで足を運ぶ人は少ないと予想されて検討外となったようだ。



愛知県芸術劇場コンサートホール

## 内外一流演奏家のコンサートも金山に移動

名古屋の民間放送局が主催する海外一流演奏家の演奏会やリサイタルが毎年シリーズ開催されるのも名古屋の大きな特徴である。春のCBCテレビ名古屋国際音楽祭、秋の中京テレビ名古屋クラシックフェスティバル、東海テレビスーパークラシックコンサートのそれぞれ数回のコンサートが軒並み芸文ホールから市民会館

に移される。主催者と共に運営に携わっているクラシック名古屋の岩崎幸弘代表取締役は、やはり演奏会場の変更で集客は半減し運営は厳しくなっていると語る。後述する室内楽ホールの減少と合わせて主催運営者へのダメージは大きく「地域文化が衰退するおそれがある」と心配する。

## 名古屋の演奏会を変えた ヨーロッパスタイル室内楽ホールの改修

なごや文化情報2014年5・6月号の視点では、<名古屋室内楽の殿堂「電気文化会館ザ・コンサートホール」「三井住友海上しらかわホール」の初期の自主企画事業をふりかえる>としてクラシック音楽専用ホールのあり方を、その演奏会の企画面に焦点を当てて現在を考えてみた。昭和の終わりから平成のはじめに開館したこの両ホールは、それまでの名古屋のクラシック演奏会の性格を一変したと言えるだろう。バブル期の始まりと終わりに出現したヨーロッパスタイルの豪華な内装と静寂さを基調とした吟味された音響効果を備えた空間は、それまで愛知文化講堂(約1400席)、中電ホール(444席)の多目的ホールを音楽ホールとして活用してきたことからすると、夢のようなグレードアップであった。初期の両ホールの自主企画公演では内外の一流アーティストばかりではなく地元演奏家に焦点を当てた演奏会が目白押しであったのは、この素晴らしい室内楽ホールで演奏してみたいという演奏家の意欲が高まったからであろう。またバブル期に高まった企業の「メセナ」活動もその背中を押して、地元演奏家の特質ある活動が華やかに展開された。現在でもその伝統が引き継がれているが、ここに1年間のブランクが生まれることになる。



電気文化会館コンサートホール



しらかわホール

## サロン化する室内楽演奏会と重なるホール改修時期

2015年7・8月号では、<サロンの演奏会のありかた>として、先の中心的なホールから、熱田、名東、中村、緑などの文化小劇場とさらに小規模なホールである100席ほどのスペースのサロンの会場へのシフトが進んでいることに触れた。多くは経済的な負担面が主な原因ではあるが、そこにはクラシック演奏会をより身近なものとして捉えて日常に根付く文化として展開したいという動きがある。演奏家が近くにいると表現の機微が理解しやすく一体化しやすい。温かい雰囲気で開催する演奏会はひとつの魅力であろう。こうした時期に中規模なホールの改修が重なったことは、両ホールにおいてもこの演奏会のあり方に対する新しい提案を求められた象徴的な出来事になっているのではないかと。時代の流れとともに変化した室内楽演奏会の形態がホールのあり方を変化させる。30年前に変革をもたらしたホールが改修を機に新しく出発し、時代の要請に応じて変化するだろうか。注目していきたい。



中村文化小劇場

## まとめ

建築事務所を営む、クラシックコンサートの常連の竹田氏は、「行政の決定での改修は仕方ないが、工期の短縮や時期の工夫でこの事態は避けられるのではないかと、また工事内容を詳しく説明されると納得できるのだが」と感想を語る。名古屋ロシア音楽研究会を主宰する筑聡子氏は、この期間のコンサートを芸文小ホールでの開催に変更して、演奏家の熱意が途切れないよう内容を工夫して継続するようにしたと語る。コンサートピアノ調律師の鈴木均氏は「運営者に負担がかかっていることは理解できるが、演奏家に演奏する熱意があり、聞き手に音楽によって生活を豊かにする気持ちがあれば、1年のブランクは影響なくすもどつてくるだろう」と語る。このホール不足問題は、名古屋のクラシック音楽界のこれからを考える大きな機会となっている。

### 「なごや文化情報」に関する アンケートのお願い

右記の質問にご回答いただき、FAX、Emailまたは郵送にて**11月30日(木)【必着】**までにお送りください。ご回答いただいた方の中から**抽選で20名様に名古屋市文化振興事業団の主催事業鑑賞補助券500円分をプレゼント**いたします。  
※当選の発表は景品の発送をもって代えさせていただきます。お預りした個人情報につきましては、当該アンケートの事務連絡のみに使用させていただきます。

- 内容について、どう思われますか。  
①よい ②まあよい ③あまりよくない ④よくない
- 「なごや文化情報」の中で関心を持つ記事はなんですか。(複数回答可)  
①表紙 ②名古屋市民文芸祭受賞作品 ③随想 ④視点 ⑤この人と  
⑥この人と…ズームアップ(1・2月号のみ掲載) ⑦ピックアップ ⑧いとのサブカル  
⑨1年をふりかえって(3・4月号のみ掲載)
- 今まで「なごや文化情報」をお読みになって感じたことをご記入ください。
- 今後「なごや文化情報」で取り上げてほしい話題や、コーナーがありましたら、ご記入ください。
- ご回答いただいた方の①お名前 ②性別 ③年代(30代など) ④郵便番号 ⑤ご住所 ⑥電話番号

【宛て先】〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目18番1号 ナディアパーク8階  
(公財)名古屋市民文化振興事業団・文化情報アンケート係  
FAX: (052) 249-9386 Email: tomo@bunka758.or.jp



# この人と...



グラフィックデザイナー

た なべ まさ かず

## 田邊 雅一さん

ジャンルにこだわらず自分のものにする。  
衰えを知らない好奇心と進取の気質。

職掌柄筆者は名古屋はもとより各地の展覧会や芸術祭、アートフェアなどに出掛けるが、いつも見かける人々の中にちょっと気になる人物がいた。グラフィックデザイナーの田邊雅一さんである。美術好きのデザイナーは少なくないが、氏の行動範囲の広さは際立っている。見かけるたびに、それが何に由来するのか、ご自身のデザインワークにかかわりがあるのか、以前から機会があれば尋ねてみたいと考えていた。

(構成：森本悟郎)

### 空襲、敗戦と少年時代

田邊さんは1937年岐阜市生まれ。幼少期、当時名古屋市郊外だった守山で空襲に遭った。《ものすごい爆撃があり、これが戦争なのかって驚いた。また夕焼けのように名古屋方面が輝いていたのを岐阜から眺めた名古屋空襲の記憶もある》。小学1年の'45年7月、岐阜空襲では焼夷弾が地面に落ちたのを目撃。家を焼失し、ひとり公会堂の地下で仮寝をしたことも。のちに那加町（現各務原市）に転居。やがて敗戦を迎えた。

戦争の影響で1・2年の授業はまともに受けられなかった。3年から学校に通うが、学業の遅れから特殊クラスに入ることになり、反逆心が芽ばえた。だが《普通クラスの4年でいい先生に出会った。絵が得意だったのを見込まれ、授業でつかう図面や小道具の制作をさせてくれ、楽しかったことを覚えている》。

那加町の中学に進学するも、一家は岐阜市に転居。遠距離通学していた。《中学校でも相変わらずワルです。喧嘩もけっこうした》。2年生の頃岐阜市の中学に転校。授

業のレベルが高かった。しかし《頭のいい生徒というのは概して絵が苦手です。僕は時間内にぱっと描いちゃって、友だちの絵を手伝う。恩を売って、今度はカンニングさせてって（笑）、そんな感じで》。また《僕の中学は美術の先生が展覧会に出す作品を選ぶので、それが嫌で、勝手にミカン箱で舞台装置を作って公募展の一般の部に出したんです。このとき岐阜市教育委員長賞を取ってしまった、それは学校としては困るんです。朝礼の時にひどく叱られました》。

### 市工芸時代

'53年名古屋市立工芸高校（市工芸）産業美術科入学。市工芸は多くの著名なプロ作家を輩出している。当時、教員に美術家の久野真先生がいた。《デッサンを持っていくと「まだ描ける」。これじゃ紙に穴が空いちゃうといっても、「いや、まだ描ける」という。今思えばよかったですけど》、その頃の先生の印象は悪かった。自分の授業はまともに出なかったが、上級生の教室に潜り込んだりした。ここで

も友人に恵まれ、在校時に培った市工芸人脈はその後も様々なつながりをもつことになった。

コンペティションへの出品には積極的で、これ

はデザインへの情熱というより賞金稼ぎも目的で、賞金をもらおうと本屋へ直行した。在校中の'55年、第8回岐阜市美術展（市展）の商業美術部門に映画『あすなろ物語』のポスターを出品。最優秀の市展賞を受賞（市展には第6回から出品。後年審査員となる）。このとき岐阜デザイン界の重鎮・加藤孝司氏から同展審査員・山名文夫氏やまな あやおや、デザイン雑誌『アイデア』のアートディレクター・大智浩氏おおち ひろしを紹介するからといわれ、岐阜・柳ヶ瀬のキャバレーに行った。学生服のまま初めてストリップショーを見た。《大智先生に「デザインの勉強はしなくていい、これからの時代、英語とダンスを覚えろ」といわれました。結局両方ともダメだったんですけど…》。高校時代に日本のトップクリエイターに出会ったことは、デザイナーとして歩み出す上で大きな励みとなった。

高校時代夢中になったのはモダンジャズ。《今の錦三丁目に〈コンボ〉というジャズ喫茶があって、アメリカの輸入盤をかけていたんです。またレコードジャケットがいいですよ、写真もタイポグラフィも》。ジャズは音楽を楽しむだけでなく、ジャケットからデザインのエッセンスを吸収した。

さまざまな経緯から、市工芸には行かなくなった。

## 日宣美

市展ではさらに日本映画ポスターをテーマに、'57・'58・'59年に市長賞を受賞。その間にグラフィックデザイナーを職業とする気持ちを強く

し、'60年の日宣美展初入選はそれを決定づけた。日宣美は広告デザイナーの職能団体〈日本宣伝美術会〉の略称で、'51年設立。毎年会員による展覧会を開催し、'53年から公募をはじめた。田邊さんの入選作は吉川英治作『私本太平記』のポスターを文字もイラストも筆で描き、全体をモノトーン



1955年 第8回岐阜市美術展 商業美術の部 審査風景  
中央 山名文夫審査委員、右端 田邊雅一



1960年 日宣美 初入選「私本太平記」

でまとめた。

'59年大企業の出資で〈日本デザインセンター〉が東京・銀座に設立される。日宣美展入選の翌'61年《名古屋にも日本デザインセンターみたいなものを作りたいと、〈デザール〉というデザイン会社を大津橋に作ったんです。主力メンバーの服部茂夫とは市工芸からつき合いがあり、デザールに就職した。だが1年でデザールを辞め、デザールの主要メンバーが新たに立ちあげた〈クリエイトセンター〉に移る。ここでは囑託という形で社内外問わず、やりたいことをやった。

'63年、日宣美会員となる。会員になって東京での就職に何度か誘われたが、《東京は勉強するところ遊ぶところ、仕事をする場所ではない》と断った。'64年に東京で岐阜出身の絵本作家若山憲さんから「銀座風月堂で個展をやらないか」と誘われ、ペン画の作品を出した。これが初個展の『ILLUSTRATION 個展』で、それを'65年に初の作品集『玉葱物語』として刊行した。

'69年8月、日宣美展審査会に日宣美粉碎を主張する学生たちが乱入、展覧会が中止となる事件があった。《日宣美の学生騒動の時、加藤孝司さんの随員で行っているんですね。ニュースで学生運動というのは見ていましたけど、目のあたりにしたのは初めて。凄まじかったですね》。翌'70年、日宣美は解散。東京・名古屋・大阪で解散展が開催された。

## さまざまな経験と情報の吸収

'60年前後、週末になると夜行列車で東京に出掛けた。《どうしてお金があったのかわからないが、交通費を出してやるから情報集めに東京まで行ってこいといってくれる人がいた》からだ。洋書は銀座〈イエナ書店〉、映画は池袋〈文芸坐〉や〈アートシアター新宿文化〉、演劇は新宿文化地下の〈アンダーグラウンド戯座〉や唐十郎の〈状況劇場〉、寺山修司の〈天井桟敷〉などで、土方巽たつみの暗黒舞踏も観ている。高校時代から親しんだジャズは〈新宿ピットイン〉等で聴いた。

前衛美術への接近もあった。赤瀬川原平や荒川修作（のちに養老天命反転地ポスターデザイン制作）たちが出品していた東京都美術館の〈読売アンデパンダン〉展にも行っているが、アンデパンダンに出そうとは思わなかった。職業にデザイナーを選んだのは、《美術ではお金にならないと思ったから》。美術や映画や書籍は自分のエキスをするという考えだった。

《岐阜新聞の仕事をしていた橋本正児さんは市工芸1期生で、岐阜で広告の仕事をしていました。仕事を回してくれて、酒も教えられた。二度急性肝炎で大変な目にあったけど、キャバレーのオープニングの広告物のデザインや宣伝企画などの仕事を結構やってます》。



《橋本さんから書類を持たせられて、銀座松坂屋宣伝部長の宮永岳彦さんのところにお遣いで行ったんです。宮永さんは市工芸の先輩（2期生）で、橋本さんの後輩になります。宮永さんは画家としてもデザイナーとしても立派な仕事をされましたね。僕は宮永さんが手がけた全日空などのポスターのファンになった。もうひとつの目的、銀座松坂屋の日宣美展。日宣美賞を受賞した粟津潔さんの『海を返せ』に衝撃を受け、それが粟津さんとお付き合いが長く遠因になっています。そういう出会いが僕の人生の節目節目に出てきます》。

## 仕事の広がり

’66年、岐阜県美術展デザイン部門の審査員となる。これは当時岐阜県の文化課長だった吉田豊氏（初代岐阜県美術館館長）の指名によるものだ。グラフィックデザイナーとして、地元の評価の高さがわかる。

’67年株式会社〈メディア〉を設立。以来、今日までメディアが仕事の拠点である。’77年名古屋事務所を開設。その理由は《岐阜では、この印刷会社のデザイナーは誰某とみんな決まっていた。入る余地がないんです。クライアントもデザイナーと打ち合わせするのは面倒、という時代。それで名古屋に出る事が多くなった。友だちも名古屋の方が多し、日宣美の会員も名古屋には自分と同じ世代の人間がいますから》。

グラフィックデザイナーとしてのスタートは田邊さんのほうが早い、《同世代の岡本滋夫さんは僕がダメだった英語もダンスもできる、作品にも懂れた。岡本さんが第1回愛知広告協会賞を受賞して、僕が’78年に第3回愛知広告協会賞デザイン賞を受賞した。岡本さんがサポートしてくれていたんだと思います》。’77年、春日井西武が開業するにあたって、《そのメインポスターを田中一光さんのディレクションで岡本さんが制作し、’78年には岡本さんのディ

レクションでチラシや新聞、POPは僕が担当した》。西武流通グループの経営者だった堤清二氏がクリエイティブディレクターに田中一光氏を充てた広告デザインは、当時の流通業界では一頭地抜けたものだった。

名古屋での活動もバブル期には、海外へ撮影に行ったり（ニューヨークの個展につながる）、テレビやCM、キャラクター、サイン計画制作など多彩に活動した。《他分野の人との出会いで、いろいろな仕事もさせてもらった》。

## デザイン教育に携る

メディア設立の翌年、日本デザイナー学院名古屋校（現日本デザイナー芸術学院名古屋校）の講師となる。日本デザイナー学院は’65年東京・渋谷に開設され、山名文夫が学院長に就いている。

’67年9月開校だったが、翌年3月から講師として着任。《僕の教育の基本は、「教えることは教えないこと」なんです。「君たちは月謝を払っているから教えてもらえると思ったら大間違いだよ、ただし疑問があったら君たちから訊いてくれ」と、1対1の勝負をするわけです。大変でしたね、60人からの学生を一人ずつ全部違う作品スタイルへもっていくのは》。

’07～’11年まで校長を務めている。《ところが今、いやになっちゃって行ってない。というのは、怪我をしたこともあるんですけど、グラフィックデザイン科の学生も少なくな



1984年 第6回ニューヨークADC 銅賞  
「TWO IN ONE SHOW」

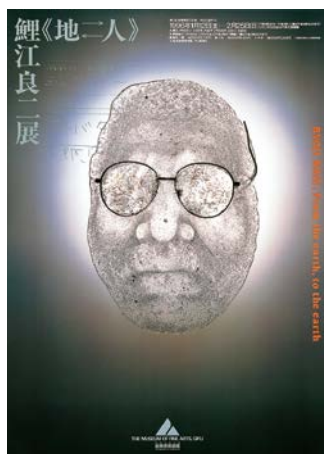


1984年 日本国有鉄道  
エキゾチックジャパン ポスター



名古屋港水族館

1991年名古屋港水族館 ロゴマーク



1996年 岐阜県美術館  
「鯉江良二展《地二人》」ポスター



2007年 岐阜県美術館開館25周年記念ポスター  
パリ装飾芸術美術館・広告博物館コレクション



っていますし、僕のほうが登校拒否!》。

## デザイナーとして、プロデューサーとして

流通・観光・公共など、田邊さんの守備範囲はきわめて広範だが、筆者が重視しているのは美術館のグラフィックワークである。岐阜県美術館は'82年の開館以来、'02年岐阜県現代陶芸美術館は開館時にかかわり、前者では担当したポスターだけで140種以上を数える。

展覧会ポスターのデザイナーには学芸員が考える展覧会コンセプトや作家の制作意図への深い理解が要求され、それにふさわしい図像の選択（時には作成）、ロゴタイプ作りやフォント選択、レイアウトや文字詰めが求められる。たいせつなのは毎回異なったテイストのビジュアルを作成しても、一目でその美術館を認知させる視覚的一貫性があることである。岐阜県美術館の、そのビジュアル・アイデンティティをつくり育ててきたのが田邊さんその人である。

岐阜県美術館で'12年、学芸員の廣江泰孝氏と田邊さんのプロデュースによる『開館30周年記念 岐阜県美術館の歴史 30年の歩み展〈Timeless future〉』が開催された。自身《カタログのように構成した》というこの展覧は、館蔵品を使った〈田邊雅一展〉でもあった。作品選定も展示プランも指揮した。展覧会プロデュースの経験が豊富とはいえ、グラフィックデザイナーが公立館の、しかも節目となる記念展のプロデューサーを務める例は希有である。同館の収蔵品と会場空間を熟知している田邊さんならではの。

## 田邊デザインのスタイル

60年以上に及ぶ田邊さんの仕事を概観すると、時代とクライアントによって作風がまるで違うことがわかる。トップデザイナーの多くがクレジットを確認するまでもなく作者がわかるようなスタイルをもっていることとは反する。これは器用で柔軟なデザインスタイルを物語るが、それは長年美



2012年 開館30周年記念 岐阜県美術館の歴史 30年の歩み展〈Timeless future〉会場風景



1995年 養老天命反転地 ポスター

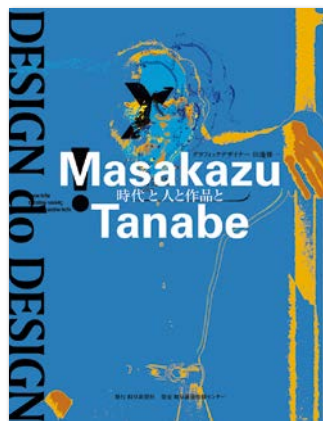


1997年 UCDAデザインコンペティション 金賞「NEGATIVISM」

術館ポスターを作ってきたことによるのかもしれない。展覧会コンセプトや出展作家を第一に考えるなら、それにふさわしいスタイルや方法を探るのもデザイナーの仕事である。自身のスタイルを《アートディレクター、プロデューサー的》というように、若い頃からディレクター田邊がデザイナー田邊を制御してきたのだろう。それは時代に即応するというデザイナーに必須の才能でもある。

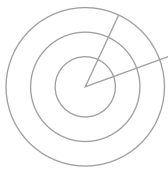
田邊さんの主要な作品に〈廃墟〉や〈死〉のイメージが見られることにも注目したい。日宣美初入選の『私本太平記』、黒い楕円が印象的な『養老天命反転地』、UCDAデザインコンペティションで金賞を得た『NEGATIVISM』などだ。それが何に由来するのか訊きそびれたが、幼年期の空襲体験が背景にあるのかもしれない。

すでに内外で数々の賞を受け、大きな仕事を幾つもこなしてきた田邊さんだが、次に何をしたいか尋ねてみた。すると《ビル・ヴィオラのような映像作品を作りたい》との回答。貪欲に吸収してきたあらゆる表現に係るエッセンスを、どのように映像作品に係わらせていくのか、その日を待ちたい。



※田邊雅一作品集『DESIGN do DESIGN』・『Timeless future』（岐阜新聞社発行）は、岐阜県図書館、岐阜市図書館、愛知県図書館（DESIGN do DESIGNのみ）で閲覧できます。

# ピックアップ



## 子どもたちが舞台の感動に出会うお手伝い ユーリカ基金

子どもたちの心に舞台の感動を届けるため、地道に活動している団体があります。一般社団法人ユーリカ基金です。ユーリカ基金は、愛知県下の児童養護施設の子どもたちを舞台公演に招待し演劇鑑賞をプレゼントする非営利団体で、2005年に発足し理事3名で運営しています。代表理事の井上正さんは会社員時代、職場のボランティア活動で毎年児童養護施設を訪問。職員から施設では楽しみが少ないと聞いた井上さんは、「子どもたちに生の舞台を観せたい」と基金を立ち上げることに。副理事長の藤浦光俊さんは幼い時からお芝居や人形劇を観るのが大好き。自分は親が連れて行ってくれたけれど…と、基金の趣旨に賛同し発足直後から活動に参加しています。

名古屋市中心に愛知県内で行われる舞台公演の中から良質の作品を選び、チケットを購入し、施設から参加希望者を募って子どもたちを招待します。この12年間で1,400名以上招待し、去年は5作品252名。今年も250名以上の子どもたちを招待する予定です。チケット代は賛同する市民からの寄付金が頼りですが、支出が上回ることのほうが多く、そんな時はメンバーの持ち出しで賄います。それでも「子どもたちが舞台と一緒に歌ったり笑ったり、楽しそうにお芝居を観ている姿や、お芝居が終わった後に俳優や人形たちと笑顔で写真を撮っている姿を見るのがうれしく、また、後日子どもたちから送られてきたお礼の手紙を読むと、苦労も吹き飛びます」と理事の穴鹿千早さん。

子どもたちにとって生のお芝居がどれだけ大切か。初めて劇場に出かけ良質の舞台芸術と出会った子どもたちは、それまで経験したことのない驚きと感動で胸を震わせ、それらの体験が子どもたちの感受性や想像力を育みます。そして一生忘れられな



子どもたちからのお礼の手紙を手に  
(左から)穴鹿さん、井上さん、藤浦さん

い大切な思い出となります。人とのつながりを求めている子どもたちに、物ではなく社会との一体感を深め心が豊かになる体験をたくさんしてほしいと願い、理事の皆さんは活動を続けています。

井上さんは「究極は自分達の活動が必要なくなり、公共施設や社会全体が養護施設の子どもたちにも目を向け、その子どもたちが日常的に生の文化に触れられるようになるのが理想」と語ります。しかしいまだ基金の存在意義は大きく、舞台公演と子どもたちの橋渡しをするため、基金では今後も賛同者を、そして舞台公演主催者からの公演情報を広く募集しています。(Y)

ユーリカ基金の案内

### 一般社団法人ユーリカ基金

寄付は1口1,000円から。  
詳しくはHP「ユーリカ基金」で検索。



# いとしの サブカル

## 名古屋に地酒を取り戻せ! 名古屋酒蔵グループ「ナゴヤクラウド」

金虎酒造株式会社 専務取締役 / ナゴヤクラウド(イエロー)

みずの よしふみ  
水野 善文

名古屋市出身 同志社大学法学部卒業。大学卒業後、システムエンジニアとして5年勤務。その後「家業を継ぐか、廃業か」の選択を迫られ2004年に金虎酒造に入社。2014年、名古屋市内の4つの酒蔵で協働し、名古屋の日本酒をPRするグループ「ナゴヤクラウド」を結成。カラーはイエロー。

日本酒は日本固有のお酒として永らく日本で、そして現在では世界で愛飲されています。その長い歴史の中で時代時代の醸造家たち、そして飲み手たちのもと、製造方法から飲み方にいたるまで実に多種多様な文化が形成されてきました。「酒屋万流」という言葉がありますが、酒蔵ごとにそれぞれこだわりがあるため、蔵ごとに特徴が異なり全く同じ酒を造る蔵は一つとしてない、という様な意味合いです。この多様性こそが日本酒の最大の魅力であると思います。

そして日本酒文化に多様性を与えている最も重要なファクターはやはり地域性です。魅力ある「地酒」と呼ばれるお酒たちは、その土地の原料を使いその土地の気候風土の影響のもと醸されるお酒であり、その土地の人達によって地元の食材・料理とともに親しまれてきたので、その土地の魅力を目一杯取り込んだ地元文化の結晶のような存在であると言えるでしょう。

しかし現代においては、その関係は少なからず揺らいでいます。文明開化以来の技術革新、効率化、情報化の波は日本酒にも影響を及ぼしました。市場も地元から全国に広がり、地酒も均質化へと進みました。また灘、伏見、越後などのいわゆる銘醸地で醸されるお酒にスポットがあたり、地酒ブランドにも地域格差があるのが現状です。これは名古屋の様な大都市圏に顕著で、たとえば市内で居酒屋に入った時、地域のお酒がメニューにない!なんて事も珍しくはないのです…。

日本酒ブームと言われる近年だからこそ更に差が開いてしまう!こうした状況を打破していこう!名古屋を名古屋の地酒で盛り上げていこう!!という志のもと、2014年、名古屋市内の酒蔵グループ「ナゴヤクラウド」は誕生しました。守山区の「東龍」、北区の「金虎」、緑区の「神の井」、「鷹の夢」、4つの酒蔵から4人のメンバーが集まりました。蔵の後継者だったり、営業として最前線に立っている人であったりと立場は様々でした



ナゴヤクラウド

が、名古屋で酒造りをしている自分たちの酒蔵のお酒を名古屋の人々にもっと知ってもらいたい!飲んでもらいたい!という想いは合致していました。

結成以降、ナゴヤクラウドのメンバーは頻繁に集まり、さまざまな企画を行いPRをしてきました。四社合同のラベルデザインコンテストに始まり、居酒屋や酒屋の人たちに向けた日本酒講座、時にはイタリアンレストランなどでの日本酒会、海外観光客向けのプロモーションや蔵見学ツアーなど活動内容は多岐に渡ります。日本酒文化はもともと他の文化との親和性が非常に高く、料理などはもとより、地元産業や芸能に音楽、観光、お祭り、と実に様々な文化とコラボして楽しんでもらうことができるのです。こうした活動を通して名古屋の人たちと一緒に盛り上がり、名古屋文化と一体となった新しい名古屋ならではの日本酒文化を創り上げていくことがナゴヤクラウドの究極目標と言っても過言ではありません。

そもそもこうした活動は冒頭で述べた「地酒」の魅力を現在の飲み手の皆さんと共に再探求していく道に他なりません。私たちはナゴヤクラウドの活動を通して名古屋に地酒を取り戻していきたい!そう願っているのです。





# やっとかめ文化祭

時をめぐり、文化を旅する、まちの祭典。

「やっとかめ文化祭」は名古屋の歴史・文化の魅力を一堂に集めた、文化の祭典。「辻狂言」をはじめ、多彩な伝統芸能の公演や、体験講座・ワークショップ、まち歩きなど、まちを舞台に、知られざる名古屋の魅力に出会う23日間です。



### ① 古典の日記念公演「女流 語りの世界」

- ◆日時：10月29日(日) 15:00～
- ◆会場：大須演芸場
- ◆料金：一般3,000円 学生1,500円【全自由席】

### ② 影魂～徳川家康と忍者 服部半蔵正成 秘譚～

- ◆日時：11月5日(日) 14:00～
- ◆会場：青少年文化センター アートピアホール
- ◆料金：一般3,000円 学生1,500円【全自由席】

### ③ 特別時代劇 「青が散る～名古屋土居下物語～」

- ◆日時：11月11日(土) 13:30～、18:30～  
12日(日) 13:30～
- ◆会場：東文化小劇場
- ◆料金：一般3,000円 学生1,500円  
【日時指定・全自由席】

### ④ トランス能 1/fのゆらぎ ～ろうそくで照らす物狂いの世界～

- ◆日時：11月18日(土) 14:00～
- ◆会場：名古屋能楽堂
- ◆料金：一般3,000円 学生1,500円【全自由席】

### オープニング

- ◆日時：10月28日(土) 13:00
- ◆会場：ささしまライブ 愛知大学名古屋キャンパス
- ◆料金：無料

### 芸どころまちなか披露

辻狂言、ストリート歌舞伎、長唄、箏曲、お座敷芸など、名古屋のまちなかで伝統文化に出会う各種ライブを開催。  
◆期間：10月28日(土)～11月19日(日)  
◆会場：ささしまライブ ほか

### まちなか寺子屋

歴史的な建造物などで、歴史や伝統文化を楽しく学ぶ講座・ワークショップなどを実施。〈全29講座〉  
◆期間：10月28日(土)～11月19日(日)  
◆会場：西蓮寺 ほか  
◆料金：500円～3,000円

### 歴史まち歩き

名古屋の魅力を再発見する「まち歩き」を実施。〈全45コース〉  
◆期間：10月29日(日)～11月19日(日)  
◆会場：市内各所  
◆定員：各回20名  
◆料金：500円～

◆日程：平成29年10月28日(土)～11月19日(日) ◆主催：やっとかめ文化祭実行委員会

＜構成＞名古屋市(文化振興室、観光推進室、歴史まちづくり推進室、文化財保護室)、(公財)名古屋市文化振興事業団、(公財)名古屋観光コンベンションビューロー、中日新聞社、名古屋観光ブランド協会 特定非営利活動法人 大ナゴヤ・ユニバーシティ・ネットワーク

◆問い合わせ：やっとかめ文化祭実行委員会事務局(NPO法人 大ナゴヤ・ユニバーシティ・ネットワーク内) TEL052-262-2580

※事業の詳細は<http://www.yattokame.jp/>をご覧ください。

頼もしい味方をお探しですか？



集客・販促プランナー

アートディレクター

印刷コンサルタント

**株式会社 駒田印刷株式会社 TEL(052)331-8881**

〒460-0021 名古屋市中区平和2-9-12 <http://www.kp-c.co.jp>

WE MAKE YOU MOVE  
感動をあなたへ

20Hz ← → 20kHz

この領域を超えて最高のパフォーマンスを。



舞台音響 / 映像設備  
設計・施工・保守・特注品製作・業務用機器販売

お客様に寄り添った先進のAVシステムを提案する  
**株式会社 エーアンドブイ**  
〒464-0846 愛知県名古屋市中区東区城木町二丁目98  
TEL/052-761-5400 FAX/052-761-0909

## 舞台映像専科

ステージの感動を格調高い映像で追求します。  
ハイビジョンで撮影し  
ブルーレイディスクでお渡しします。



ビデオソフトの企画制作

有限会社 **エーワン・ビデオ・システム**  
TEL(052)896-2256 FAX(052)896-4100

「ナゴヤ劇場ジャーナル」ではサポート会員を募集しています。



◎年間6,480円で毎月お手元にお届けいたします。  
◎毎月24,000部発行 ※東海地方の演劇・バレエ・音楽公演、各所顧客DM、他に配布

**MP MANAGEMENT PRO 株式会社 マネージメント・プロ**

〒464-0850 愛知県名古屋市中区千種区今池1-14-11 CASA LUZ302  
TEL (052) 735-3151 FAX (052) 735-3152 E-mail: mpoffice@pa2.so-net.ne.jp

### 業務内容

- ① 舞台の企画・制作マネージメント
- ② イベントの企画制作
- ③ 芸術団体のコンサルティング
- ④ 舞台・イベントの運営